

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

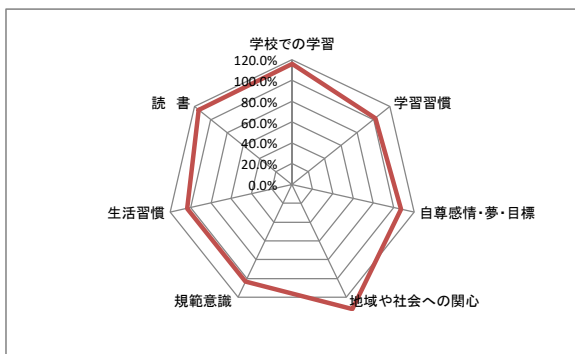
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において、全国平均正答率を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較
			上回っている
	よくできた問題	各領域の問題において、問題形式(選択・短答・記述)を問わず正答率が高かった。無解答率も低かった。	
	努力が必要な問題	「かぎらず」「限らず」の問題のみ、無解答率が突出して高かった。基礎的・基本的な内容の定着を図りたい。	

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域において、全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較
			上回っている
	よくできた問題	特に「図形」「量と測定」についての知識・理解ができていた。どの領域の問題でも、無解答率が低かった。	
	努力が必要な問題	面積の求め方の説明、加法と乗法の混合の計算、除法の計算の仕方の説明の問題については、全国平均正答率を下回っていた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
どの質問項目においても、全国平均と比べて良好な回答結果である。 特に、地域や社会への関心が高い。これは普段から地域・社会の様々な大人と接する機会が多いためであると思われる。校内においても、スクールヘルパーやボランティアと児童の交流が盛んに行われている。 学習習慣、生活習慣、規範意識は全国平均並みであった。さらに高められるよう、学校と家庭・地域が連携し、よりよい習慣と意識が身に付け、意識を高められるようにしたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本校では「言葉で説明する力」を国語科で育て、その力が各教科等に波及することを目指し、全学年で授業研究に取り組んでいる。算数科等においても、単に「計算ができる」という知識・技能だけでなく、「自分の考えを友達に説明する」などの思考力・判断力・表現力等を育めるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

特にスマホやゲームなど、時間の制限を守ることができずに長時間利用してしまい、生活のリズムが乱れてしまう児童も増えてきている。睡眠時間の不足により、学校でも学習に集中できず、学力の定着に支障をきたすことも懸念される。中学校以降の生活も見据えて、家庭学習や生活習慣の定着を図ることが必要である。